科技高 いきもの記

Vol.14 2020.11.13

佐藤龍平

クワガタじゃなくてダンゴムシの仲間
ウミクワガタ

↑シカツノウミクワガタのオス。クワガタにそっくりな大あごをもつが、ウミクワガタは等脚目に属するダンゴムシに近い仲間だ。体長約３mm。

小さい頃から私は、なんとなく海よりも草原や山、森林の方が好きで、陸の生物への興味の方が強かった。それがここ最近、**妙に海の生物に惹かれ始めてしまっている。**私を海の“沼”に誘うのは、**ウミクワガタという珍妙な生物の存在**だ。どう見てもクワガタにしか見えない姿や、「カイメンと共生している」というおもしろ生態がガイドブックに書いてあって、なんとも興味をそそる。

三浦海岸で生徒を見守っている時、せっかくだからとウミクワガタを探してみることにした。まぁそんなに簡単に見つかるわけない、と思いながらもぶちぶちとカイメンを割いてみる……と、え？！なんかいる！あ、これ、ウミクワガタだ！！！なんともびっくりするくらい簡単に見つかってしまった。というか、ウミクワガタ超小さい！！想像以上の小ささだ！でもちゃんとクワガタの形をしている。うーん、面白い。

↑シカツノウミクワガタのメス。メスには大あごがないところもクワガタと同じだ。

調べてみると、このウミクワガタという生物は、クワガタみたいな姿をしているが、**クワガタとは全く違う生き物**で、「等脚目（ワラジムシ目）」というグループに属する。つまり、**ダンゴムシに近い生き物**だ。いやいやでも見た目がクワガタに似すぎでしょ！と思うかもしれないが、これはあくまでも他人のそら似。生物の世界では「収斂（しゅうれん）進化」と言われていて、「生活の仕方が似ていると形態が似てきてしまう」という現象だ。イルカとサメなんかがいい例で、イルカは哺乳類、サメは魚類で、お互い全然違うグループの生き物なのに形態は非常によく似ている。ウミクワガタのオスも、メスを支えたり、外敵から身を守ったりするために大あごを発達していって、結果的にクワガタに非常に似た形態になったようだ。

また、ウミクワガタは見た目だけでなく生態も変わっている。**幼生時代は魚に寄生**していて、大人になるとカイメンに潜り込んで交尾をするのだそうだ。幼生は魚の表面を針のような口で刺して体液を吸い、パンパンに膨れ上がる。面白いのが、魚の体液を吸う前後であまりにも見た目が異なるので、吸う前と吸う後で違う名前が付けられているそうだ。（前者をズフェア幼生、後者はプラニザ幼生という）。**食事の前後で名前が変わる生き物**なんて、他にはいないんじゃないか？！今回は成体しか見れなかったが、いつか幼生も見てみたい。シカツノウミクワガタの幼生は**アゴハゼに寄生する**そうなので、磯場のアゴハゼの体表を探せば見つかるのかもしれない。残念、、、もっとしっかりハゼを見ておくべきだった…。来年の楽しみにとっておこう。こうして、ズブズブと沼にハマっていくのであった。

ところで、カイメンは英語でspongeといい、本当にスポンジのような感触をしていて簡単に手でさくことができる。古くはこのカイメンをスポンジとして利用していたらしい。（ちなみに、スポンジボ〇の作者は海洋生物学者で、あの超有名な黄色いキャラクターはカイメンがモデルなのだ。）

全く動かないし、簡単にちぎれるし、とても動物には見えないが、カイメンもれっきとした動物であり、「**海綿動物**」と分類されている。

↑ウミクワガタが住処にしているカイメン。これもれっきとした“動物”だ。

↑クロイソカイメンを割くと、ウミクワガタを発見。小さすぎる！（矢印）

↑２匹のオス。カイメンの隙間にうまく潜り込んでいる。